

**令和元年度 北海道立総合博物館協議会
アイヌ民族文化研究センター専門部会 議事概要**

会議名	令和元年度 北海道立総合博物館協議会 アイヌ民族文化研究センター専門部会
開催日時	令和元年11月19日(火) 13時30分～15時30分
開催場所	北海道博物館 講堂
出席委員	大島稔特別委員、児島恭子特別委員、酒井奈々子特別委員、 中村吉雄特別委員
欠席委員	澤田一憲専門部会長、関根真紀特別委員
出席者 (博物館、本庁)	【博物館】石森館長、中村アイヌ民族文化担当副館長、齊藤副館長、 小川学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長、川田総務部長、 右代研究部長、山岸主幹、甲地研究主幹 【本庁】高橋主査(文化振興課)、柴山主任(アイヌ政策課) 【事務局】池田学芸主幹、東学芸主査、会田学芸主査、遠藤研究職員
傍聴者	なし

今回の専門部会は澤田部会長が欠席のため、臨時的に児島委員を部会長代理として選出し、議事は児島特別委員により進行された。議題と主な意見・質疑応答は以下のとおりである。

【議 題】

(1) 報告事項1 令和元年度第1回北海道立総合博物館協議会実施報告

・令和元年9月19日に開催した、第1回北海道立総合博物館協議会の議事概要について、事務局から報告した。

(1) ガバナンスについて

(特別委員) 外部評価で「ガバナンスについてはわかりにくい」という意見があったが、一般論として、何も問題が無いときのガバナンスは記述しづらいものだ。そこで、館内のことにしても、道庁との関係にしても「問題点は何か」という発想で記述しなければ、わかりやすい記述にはならない。

(2) 道民参加型組織について

(特別委員) 既存の「友の会」のような形だと年配の参加者はあるかもしれないが、SNSでグループを作るなど、新しい形を考えることが今の時代には合う。それは同時に、SNSを使った広報にもなりうると思う。

(3) 広報について

(特別委員) 広報はどのようなメディアを使っているのか。また、どのようなメディアがあると認識しているのか。「夷酋列像」展はテレビへの露出が効果的だったので、そういう売り込みをすべき。メディアごとに、それぞれ具体的な売り込み方があるはずだ。

(事務局) テレビ・新聞等が有力であることは了解しており、特別展・企画テーマ展のマスコミ向け説明会などを実施している。

アンケート結果を見るとポスター・チラシが有効なので、子ども向けに学校でチラシ配布を行うなど、ファミリー層向けの広報を行っている。またサービスを向上することで、口コミによる広報があると考えている。

(特別委員) ロコミを重視する考え方が古い。SNS を有効利用するべき。動物園など多くの施設で SNS は大いに活用されている時代である。

(2) 報告事項2 アイヌ民族文化研究センター平成30年度事業実績及び令和元年度事業実施計画

・アイヌ民族文化研究センターの平成30年度の事業実績及び平成31年(令和元年)度事業実施計画について、小川学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長から報告した。

(1) 調査研究について

(特別委員) 右代研究部長らが行っている北方四島の調査について、これから報告が出るものとしては、どれくらいあるのか。

(右代研究部長) 報告は研究紀要にすべて載せることにしている。

(特別委員) 研究者同士なら詳細な論文があればいいが、研究者ではない人間にとっては、それだけではわかりにくく、使いづらい。専門的な報告だけではなく、「概略をわかりやすく一般向けに伝える資料・成果報告」を作ってほしい。

(特別委員) それは研究成果発信の新しい視点になると思う。

(2) アイヌ民族文化研究センター専門部会の位置づけについて

(特別委員) 外部評価報告書を作成中ということだが、この専門部会での意見は報告書に反映されるのか。ここでの意見・発言は無駄になるというのが現状で、それこそがガバナンスの問題だ。これは根本的なことであり、重要なことなので、協議会のあり方・方法を含め、考え直すことを検討してほしい。

(4) 今後のスケジュールについて

・資料5に基づいて、令和元年度の協議会スケジュールについて事務局から説明した。

(特別委員) 年度も半分以上を過ぎたところで「年度計画」の報告というのは、よくわからない。「今年度の中間報告」にするなど、整理が必要だ。

(5) その他(意見交換・情報交換)

(1) 研究センターのレファレンス(自治体からの問い合わせ対応)について

(特別委員) 各自治体がアイヌ関係の事業を行う際に、どう進めるべきかなどの問い合わせを研究センターにすることがあるという話だが、ぜひ正しく対応してほしい。

(小川学芸副館長兼センター長) 現実的にできることとできないことがあるので、その点を注意しながら、コメントを返すようにしている。

(2) 評価資料について

(特別委員) 外部評価では胆振東部地震の際に被災情報の集約を行ったということで評価されていたが、それはシステム上の話である。文化財の被害があったのか、それはどうしたのかという具体的な結果がどこにも書かれていない。

(小川学芸副館長兼センター長) 確かに、「実際に何をして、その結果どうなったか。それをどう評価できるか」ということが具体的に書かれていないが、書かれるべきである。

(特別委員) 博物館全体に言えることだが、館内で行った事項に終始している。外部への貢献がよくわからない。資料では丁寧に記載してほしい。